

非結核性抗酸菌症と診断されている患者様と御家族の皆様へ

試験名：気流閉塞を持つ非結核性抗酸菌症患者における呼吸機能の経時的低下・急性増悪のリスクに関する後方視的研究

<非結核性抗酸菌症と気流閉塞について>

気流閉塞の主な原因である慢性閉塞性肺疾患(COPD)は現在増加傾向にある疾患であります。また、非結核性抗酸菌症は土壌・環境中から同定される抗酸菌の一つであり、治療法の確立が急がれる疾患の一つです。ともに増加傾向にある呼吸器疾患であるため、COPDと非結核性抗酸菌症の合併した症例についての治療法・予後に関しての研究の必要性は高いと思われませんが、まだ多くの報告はない現状であります。慢性閉塞性肺疾患の気流閉塞を確定するためには呼吸機能検査が重要であり、かつ不可欠な検査であります。非結核性抗酸菌症を含む慢性感染症でも気流閉塞はおこり、重なる病態もあるため、COPDと非結核性抗酸菌症の合併した症例の病態解明が難しいと思われま

そこで私たちは気流閉塞をもつ非結核性抗酸菌症の患者様についての病勢の安定性、特徴的な画像所見、予後解析について後方視的研究を行う予定です。

<調査の対象となる患者様>2010年1月1日から2013年8月31日までに当院の喀痰抗酸菌培養検査で非結核性抗酸菌症と診断され、呼吸機能検査を同時期に施行された患者様を対象としております。

<調査方法>患者様のカルテ等の記録をもとに調査いたします。本調査では、患者様に新たなご負担をおかけすることはありません。

<患者様のプライバシーに関して>個人情報漏洩を防ぐため、国立病院機構近畿中央胸部疾患センター内科および臨床研究センター感染症研究部においては、データファイルのデジタル化、暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者様を特定できる情報は一切含まれません。

<研究期間>臨床試験審査委員会における審査を受けてから3年間疫学研究にご自身の臨床情報の使用を同意されない場合は、研究代表者までご連絡いただければ解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも診療上で不利益をこうむることはございません。

ご不明な点がございましたら、本調査の研究代表者までお問い合わせください。

〒591-8555 大阪府堺市北区長曾根町 1180

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター

内科 小林岳彦 臨床研究センター感染症研究部 露口一成

TEL:072-252-3021、FAX:072-251-2153

なおこの調査は病院外の専門家の方を含んだ臨床試験審査委員会(IRB)における厳重な審査・承認をうけて実施しています。(当院ホームページに掲載)